

検査・診断はどのように行われるのでしょうか？

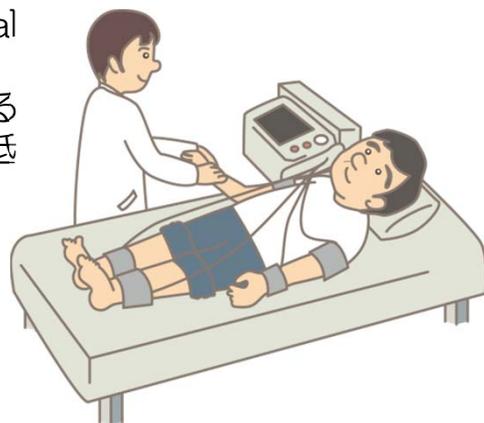
視診

仰向けに寝た状態で、両足を上げて運動した時と下げたときの足の色の変化を調べます。（挙上・下垂試験）。動脈硬化で血液が流れにくくなっている足では、上げると蒼白になります。



ABI検査（足の血圧／腕の血圧）

腕と足の血圧を比べて血流低下の程度を測定します。足の血圧と腕の血圧の比（足の血圧／腕の血圧）をABI（Ankle Brachial Pressure Index）と言います。血液が流れにくくなっている場合、足の血圧が低下し、ABIも低下します。



触診

足を触って脈拍の強弱、皮膚の温度を調べて動脈硬化を確認します。動脈硬化が起きていると、脈拍が弱くなります。



運動負荷試験（トレッドミル検査）

トレッドミルと呼ばれるベルトコンベアの上を歩くことによって、運動前後の足の血圧変化を観察します。



血管造影検査

血管に造影剤を入れて、画像撮影撮影します（MRアンギオグラフィー、CTアンギオグラフィー、下肢動脈造影など）。どの部分の血管に変化が起きているかを画像で確認します。

その他

超音波で血液の流れ方や血管の状態をしらべる「下肢血管エコー検査」、皮膚の温度を測定する「サーモグラフィー検査」、皮膚の血流を評価する「皮膚灌流圧（SPP）」などがあります。